

# 中村設計新聞



## 第七十五号

三月十六日(土)曇り

今期は『時代』を土曜研修の年間テーマとし、三月は『飛鳥時代』をとりあげ研修を行いました。



### ○はじめに

三月の土曜研修は、大阪狭山市まで足を運び「飛鳥時代」に建設された日本最古のダムである狭山池と狭山池博物館へ行きました。  
また橋梁に関する企画展の見学や、講演会に参加し、ダムと橋梁の2方向から「土木」について学びました。

### ○スケジュール

阪急 烏丸駅 集合  
南海 大阪狭山市駅 着  
大阪府立狭山池博物館 到着



常設展 見学  
(ボランティアガイドによる解説)

昼 食

企画展 見学

「土木遺産展 関西の橋梁めぐり」

講演会 受講

「橋梁の歴史・大阪・神戸、そして世界の橋梁の今」



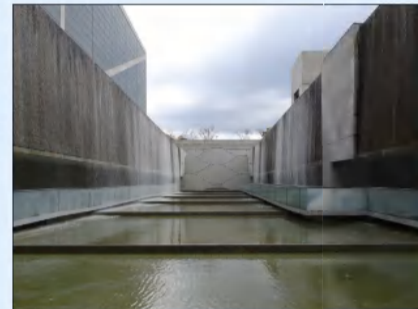
↑圧倒的な存在感！



↑建築を巡るアプローチ。

### ○大阪府立狭山池博物館とは

一四〇〇年の歴史を刻むダム式ため池である狭山池と一体化した親空間を有する土地開発史専門の博物館。  
狭山池の平成の改修時に発見された土木遺産の保存及び公開を目的に、安藤忠雄氏の設計により二〇〇一年に竣工・開館しました。



↑水が流れる瞬間は圧巻！



↑建築についての解説

### ○常設展

狭山池の断層をはじめとする平成の改修時に発見された土木遺産を中心に展示されています。  
7つのコーナーに分かれ、狭山池が建設されてから現在までの各時代の役割、土木事業の持つ歴史的意義と内容を伝えています。



↑大迫力の実物の断層！



↑断層で改修の歴史がわかる

### ○企画展

「土木遺産展 関西の橋梁めぐり」  
浪花大阪八百八橋と言われた水都大阪の橋梁にスポットを当て、関西の橋梁を中心に余部橋梁の部材や製造工場を示す刻印、鳥飼大橋に使われていたリベット断面部材、戦時中の機銃掃射を受けた淀川大橋の部材等、当時の技術者が、手書きで作成していた設計図が展示されています。



↑狭山池からの供給範囲に驚愕



↑石棺を水路に利用していた



↑江戸時代の資料解説



↑出土時を再現した実物展示

### ○講演会

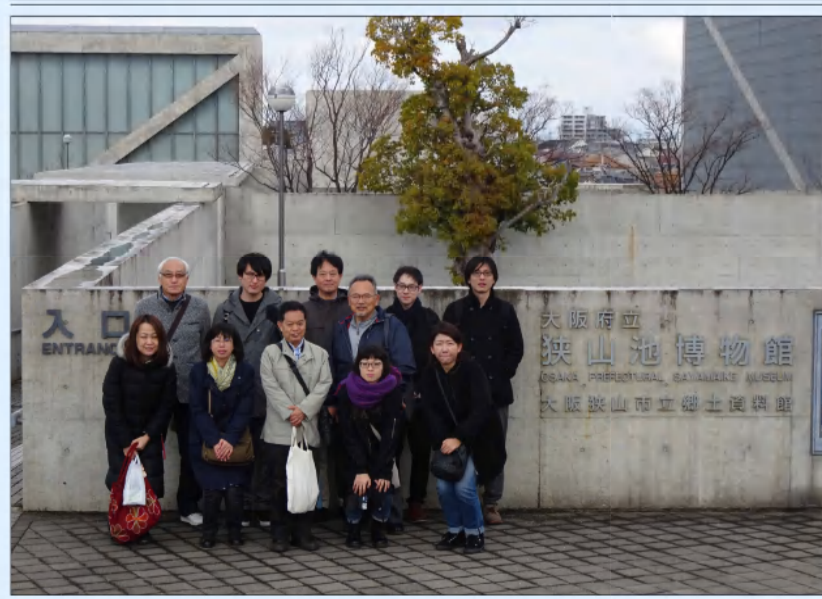
「橋梁の歴史・大阪・神戸、そして世界の橋梁の今」をテーマとした講演会に参加しました。  
講演者より、実際に現場で携わったことなどの感想や、橋梁の歴史、種類、規模等に関する幅広い紹介が盛り込まれていました。



↑橋梁について熱く解説していただきました。

### ○レポート

今回は、土木技術の築造橋梁についての知識を学ぶことができ、また土木と深い結びつきをもつ狭山池博物館にて、さらに深い歴史等を学びました。  
特に狭山池博物館は、入館してすぐにその凄さを目の当たりにしました。それは館内へ移設された高さ約十五メートル、幅約六十メートルの北堤の断面でした。改修を繰り返して現在まで使われ続けられていることを知ると歴史を感じます。  
中村 友紀



### ○まとめ

初めて訪れる所員が大半で、建築設計とは似ているようで全く違う「土木」について学ぶことのできた有意義な一日となりました。

### ○クイズ

日本国内に法律上ダムと扱われているものはいくつあるでしょう。  
①約千箇所 ②約二千箇所  
③約三千箇所 ④約四千箇所  
正解は、次回の中村設計新聞で！